

(様式5)

第三者評価報告書

第三者評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	19

事業所名	グループホーム ゆずりは			
事業所番号	2873600346			
住 所	〒679-4001 たつの市揖西町新宮29-6			
事業所対応者	役職	管理者	氏名	池田 てる子
自己評価実施日	平成 21年 6月 1日			
評価機関名	特定非営利活動法人 日本福祉文化研究センター			
第三者評価実施日	平成 21年 6月 26日			
評価結果確定日	平成 21年 9月 1日			
評価調査者	調査者番号	HC06-1-0048	氏名	岡田 明美
	調査者番号	HC07-1-0030	氏名	安東 由紀子
	調査者番号	HC07-1-0033	氏名	空 千秋

項目番号について

- ・第三者評価は30項目です。
「第三者」の列にある項目番号は、第三者評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。
- ・番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目への取組状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法について

- 「取り組みの事実」
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- 「取り組みを期待したい項目」
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
- 「取り組みを期待したい内容」
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
- 家族 = 家族に限定しています。
- 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者を兼ねる場合は、その人を指します。
- 職員 = 管理者、常勤職員、非常勤職員及びパート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
- チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、地域包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【評価実施概要】

事業所番号	2873600346
法人名	有限会社 湧福の家
事業所名	グループホーム ゆずりは
所在地	〒679-4001 たつの市揖西町新宮29-6 (電話) 0791-64-8228
評価機関名	特定非営利活動法人 日本福祉文化研究センター
所在地	〒534-0016 大阪市都島区友渕町1丁目3-36-401
訪問調査日	平成21年6月26日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 7月 15日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	6人
非常勤	3人
常勤換算	8.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造地上2階建 耐火構造造り
	2階建て 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 645 円		(月額20,000円)	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1	要介護2		1	
要介護3	3	要介護4		3	
要介護5	1	要支援2		0	
年齢	平均 88歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栗原病院、魚橋病院、久保歯科医院
---------	------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

一般の住宅を改修し、1階と2階を使って1ユニットのグループホームとなっている。住宅街の中にあり、利用者が自由に散歩している光景には違和感が無く微笑ましい。職員と利用者が家族的な雰囲気であり、共に支えあう関係が自然に出来ているのは、「小さいからこそできる」という事業者の方針と「その人らしい当たり前の生活」という理念に裏付けられている。建物周辺の庭も手入れされており、果実や草花が季節の違いを感じさせてくれる。今までの通信便りが途切れているが、今後、継続的に出せるようテーマ化した取組みを検討されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	地域の行事への参加(婦人会のふれあい喫茶や老人会行事)が積極的に行なわれている。外部研修への参加や火災訓練における近隣との協力体制も定着してきた。風呂場の改修により、ADLの低い人の入浴も可能になっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	前回の資料を参考にして、管理者と主任で作成している。前の管理者が病气入院しており、資料の引継ぎなど苦労しながら自己評価を作成している。自己評価の中から、今後の課題などが見えてきている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議の開催で、テーマの設定に苦労している。今後、年間を通しての計画を作成し、家族中心や近隣への情報伝達など、メリハリをつけた取組みを検討しており、警察との連携による防犯訓練、消防訓練における近隣との協力体制などが構築されている。また、医療機関との連携などを視野に入れた取組みも期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	アンケートの結果から見ると、家族との連絡やコミュニケーションが良く出来ていることが伺われる。あえて課題となる部分を探すなら、職員による外出支援がやや少ないことが伺われるが、利用者のADLに合わせて過不足の無いような取組みもされており、努力のあとがうかがわれる。あとは、家族への連絡(お便り)への取組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	近隣との交流が積極的に行なわれており、婦人会の行事や老人会への参加など定着してきている。子ども達の行事(地域の清掃活動など)へも参加しているが、音楽会や運動会の時期は暑かったり寒かったりで中々参加が難しい面がある。ホームの周辺を散歩することで、近隣の人たちの理解が深まってきている。